

平成26年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第11回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス11）の開催準備等

エメックス11の開催地は、平成25年（2013年）10月の科学・政策委員会において下記概要案のとおり正式に決定され、エメックス10閉会セッションにおいて、公式発表が行われた。

【エメックス11の概要案】

〔時期〕 平成28年（2016年）夏頃
〔場所〕 サンクトペテルブルク（ロシア連邦）
〔テーマ〕 「バルト海の環境保全」など（検討中）
〔現地事務局（予定）〕
ロシア国立水文気象大学
A.P.カルピンスキーロシア地質研究所

① エメックス11の開催準備

ロシアでのエメックス会議開催は初めてとなることから、現地の政府関係機関や研究機関、関連団体等とのネットワークの構築、プレワークショップ開催の検討など、エメックス11開催に向けた資金面、人材面での協力を得られるよう準備を整える必要がある。

このため、渡邊正孝科学・政策委員長をはじめ関係者、事務局がサンクトペテルブルクを訪問し、現地の政府関係機関、研究所、団体等との情報交換・協議を行う。

② エメックス12の開催検討

平成25年（2013年）10月の科学・政策委員会において、メナサウエイド委員からタイでエメックス12を開催したいとの意向が表明された。タイでの開催は平成15年（2003年）のバンコクでの開催に次ぐ2回目となる。テーマについては沿岸域管理と災害、気候変動などが候補に挙げられており、引き続き開催に向けて調整を行っていく。

なお、エメックス12以降の開催については、これまでに開催された地域のフォローアップ及び開催実績のない新たな開催地の検討の視点から、科学・政策委員会で調整を図りながら、開催適地を選定する。

③ 科学・政策委員会の開催

エメックス11の開催準備、エメックス12の開催検討を行うとともに、エメックス活動の推進について検討・調整を図るため、科学・政策委員会を開催する。

〔開催時期〕平成26年（2014年）7月頃

〔開催場所〕神戸市内

イ エメックス国際セミナーの開催

これまでのエメックス会議の成果を踏まえるとともに、エメックス11に向けた機運を醸成していくため、センターがこれまで提唱してきた「里海」の取り組みやバルト海での環境保全活動などについて、広く情報発信する国際セミナーを開催する。

〔開催時期〕平成26年（2014年）7月頃

〔開催場所〕神戸市内

ウ エメックス活動の推進

エメックス会議の開催をはじめ、国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う

エ 国内外機関との連携

① PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）等との連携

平成20年（2008年）に非政府パートナーとして加入したPEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）やエメックス会議への参画実績があるLOICZ（沿岸域における陸地－海洋相互作用研究計画）との情報交換等を進め、海外機関との連携充実を図る。

② ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association）の国際会議開催に合わせ、当センター科学・政策委員会委員によるセッションの開催等を行い、エメックスの普及啓発と連携を図る。

・開催時期、場所等は未定

オ 調査研究事業

① 戦略研究プロジェクトS-13「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」の実施

環境省から戦略研究プロジェクト（環境研究総合推進事業）を受託し、平成26年度（2014年度）から5年間にわたり、プロジェクトリーダーとなる柳哲雄九州大学名誉教授を特別研究員として迎え入れ、プロジェクトの全体管

理を行うとともに、統合数値モデル構築などの研究に、関係大学・研究機関とともに取り組む。

【戦略研究プロジェクト（S-13）の概要】

- 総括：プロジェクト全体の管理と沿岸海洋管理哲学の提示
テーマ5：沿岸海域管理のための統合数値モデル構築（平成27年度～）
- テーマ1：閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発
- テーマ2：閉鎖性内湾が連なる三陸沿岸海域における海域管理法の開発
- テーマ3：陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発
- テーマ4：沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示

*各テーマの下にはさらに1～4のサブテーマが設けられる。

予算規模 プロジェクト全体で年間1.5億円

【環境研究総合推進事業（戦略研究プロジェクト）】

環境研究総合推進事業とは、持続可能な社会構築のため、環境の保全に資することを目的とした環境省の競争的資金による研究事業で、戦略的研究、環境問題対応型研究、革新型研究、課題調査型研究の領域区分がある。

そのうちの戦略的研究は、大規模研究開発プロジェクトで、環境省がプロジェクトの大枠を提示し、大学、研究機関が協働して取り組むものである。これまでは主として地球温暖化や生態系保全等の研究課題が取り上げられており、水環境の分野では今回のプロジェクトが最初の研究プロジェクトとなる。

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、徳島大学、大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集・発信事業

ア インターネットによる情報発信等

閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関する情報収集・発信のため、エメックス会議に関する各種情報（開催案内、論文募集情報等）の提供、エメックス会議・エメックス国際セミナー等の開催概要、エメックスセンターの活動内容（出版・調査研究実績等）等について、より迅速に、分かりやすく見やすくなるようホームページ（日本語・英語）をリニューアルし、タイムリーな情報発信を行う。

イ エメックスニュース等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を年2回程度発行する（日本語・英語）。

また、会議開催案内、論文募集等タイムリーな情報発信が必要な内容について、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 海の環境学習人材育成事業

尼崎港内の筏や人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業実施に向けた検討を進める。

イ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。